

筵内地区案内のポイント

古賀史跡案内ボランティア編

平成15年08月01日

I 筵内地区史跡めぐりコース

1. 熊野神社周辺

薬師如来板碑 A → 熊野神社(阿弥陀堂。阿弥陀如来像板碑・腰掛け石) B → 大根川
改修記念碑 C → 谿雲寺(薄旭空きょつこう 記念碑) D → 須賀神社(都筵内会館・庚申塔・楠・
札所) E → 弘法大師像 F → 種子の板碑 G

2. 医王寺周辺から旦の井戸

茶屋の山 H → 刻線石 I → 庚申塔 J → 医王寺(一字一石塔・六地藏・秋葉神社) K →
切腹の間 L → 立花家家臣の墓 M → 山の神 N → 旦ノ原の井戸 O
→ 清滝仕掛水 P

II 筵内地区について

1. 筵内の地名由来

① 神功皇后伝説：神功皇后が新羅を征し、この山(熊野神社の故社がある山)に
上った時、白鷺が飛び来って傍の松樹に止まったので鷺白山の名がついた。また
神功皇后が熊野大神を祀られた時、藁筵を敷いて御座に用いられた。村の地名は
ここから起こったという。

2. 古代の官道 席打駅

① 古代の太宰府への官道、席打駅(むしろちのうまや)はこの地との説も。
⇒ 官道：旧説では海沿いの道筋、最近の説では J R の城山トンネルから畦町を通
る内陸沿い。この場合席打駅は踊が浦。

3. 唐津街道

① 北九州・・・旦の原の井戸→青柳宿→新宮太閤水・・・福岡・・・唐津
② 江戸時代の参勤交代に使用された。黒田藩・唐津藩・後に薩摩藩も

Ⅲ 熊野神社周辺

1. 薬師如来板碑 【 A 】

- ① 玄武岩の自然石に筋ぼりされた薬師如来像板碑は熊野神社の阿弥陀如来像板碑や摩滅して不明の板碑(千手観音か、久保田屋敷)とともに3基の一つでこれらが同時期であれば建長7年(1255)頃の作となる。
- ② 伝承によれば昔筵内に疫病が流行し、これを封じるために3基の板碑が大根川の岸に建立されたが、洪水(いつの時期の洪水であろうか)で流された後に現在地に移された。孫目の薬師さまとして尊信され、昭和33年(1958)福岡県指定文化財に指定された。

2. 熊野神社(阿弥陀堂・阿弥陀如来板碑・腰掛け石) 【 B 】 (別紙)

- ① 祭神： 祭神は饒速日命。速玉男命。伊邪那美命・事解男命。宇麻志麻命を祀っている。
- ② 由来： 創建はつまびらかでないが文安5年(1448)に鷲白山から現在地に移し、天文年中(1532～1555)再建したと言われる。現在の神殿は明治25年に再建し見事な龍が彫られている。
- ③ その他： 古賀市最古の鳥居(一の鳥居)。

3. 大根川改修記念碑 【 C 】

- ① 福岡藩主記録に席内新川が宝永3年(1706)に作られたことが記されている。席内村川筋が悪くて年々水害にあい、被害が大きかったので新川を掘り(370間)古川を埋め田畑にかえした。
 - ② その川も被害が絶えず昭和28年(1953)の大水害で水路を東方の山裾に変更する改修工事を行い昭和35年に完成した。その記念碑で、これまでの川は公園になっている。
 - ③ 昭和28年災害： 6月4日から降り始めた雨は29日まで続き、古賀で最大の水害となった。死者10名・行方不明者5名・床上浸水1403戸。橋梁24ヶ所流失。医王寺もこの時山崩れに遭い崩壊した。
- ⇒ 河川改修記念碑： 堀田橋、庵原合金製作所前

4. 谿雲寺 【D】（別紙）

- ① 宗派・本尊：宗派)浄土宗。本尊)阿弥陀如来。山号)圓盛山。
- ② 縁起： 浄土宗西山派谿雲寺は寛治2年(1088)に長福寺として創建された。保元元年(1156)の兵火で全焼し、平治2年(1160)に再建し長福寺と称した。鉦鼓に長福寺と陰刻の銘がある。慶長5年に再び兵火に逢い、元和元年(1615)に再建し谿雲寺と称し現在にいたっている。境内に観音堂と記念碑が建立されている。
- ③ その他： 現市長中村隆象氏が育つ、また御父第19世住職の墓あり。

5. 薄旭空すすききよつくう記念碑 【D】（別紙）

- ① 薄旭空きよつくうは谿雲寺の住職。幕末から明治維新にかけて地域の子供を集め学問を教えた。
- ② 記念碑の玉垣すすきじょいちに薄恕一の名がある。大阪谷町で病院を開業。力士の面倒をよくみた。相撲界でひいき筋のことをタニマチというのはここから来ている。

6. 須賀神社（庚申塔・楠・札所）【E】（別紙）

- ① 祭神： 素戔鳴尊すさのうのみことである。
- ② 由来： 祇園祭の神輿がここから練り回り村人の祈願、感謝がおこなわれている。また放生会でも秋葉神社から神輿がお下りをして村人の神楽や演芸が奉納されており村祭で賑わっている。

7. 都筵内会館（夜学舎）【E】

- ① 須賀神社の境内にあった夜学舎は明治初期に唐津街道の松を使って建てられ
- ② その夜学舎で谿雲寺の住職 薄旭空すすききよつくうは寺の仕事の傍ら幕末頃から村の子弟を集め教育を施した。村人は感謝の気持ちを後世に残そうと記念碑を谿雲寺入口に建立した。
- ③ 平成10年寄付によって改築され都筵内会館と改名した。

8. 弘法大師像 【F】

- ① 由来： 筵内公園の弘法大師像は古賀市誕生を記念し古賀町で少年期を過ごした安武秀久氏が平成10年に寄贈。(古賀町広報1997、10月号)

- ② 大根川と弘法大師伝説：川で大根を洗っていた老婆に「その大根を分けて呉れ」と弘法大師が頼んだところ老婆は「お前にやるような大根はない」と断った。そこで大師が錫杖をトンと突いたところ水がたちまちなくなった…という話
⇒ 最澄伝説(花鶴浜、立花山独鈷寺、千年家)

9. 種子の板碑 【 G 】

- ① 山鹿の道端に阿弥陀如来の種子キリークが刻まれた板碑がある。
⇒ 種子の刻まれた板碑：米多比(阿弥陀三尊)、鹿部(地藏菩薩)、新原(薬師如来)

Ⅳ 医王寺周辺から旦の井戸

1. 茶屋の山 【 H 】

- ① 豊臣秀吉が朝鮮出兵で名護屋城(佐賀県)一、向かう時、この峠で休んで茶を嗜んだと伝えられ、それが地名として残った。茶屋山は江戸時代は唐津街道を往来する人たちの峠の茶屋になった。

2. 刻線石(貴布祢神社祭祀跡) 【 1 】

- ① 太陽を中心に生活していた時代の暦か方位を表わす地図と思える。
② 日本では沖縄と島根に同じような石がある。
③ 古代文化を知る上で非常に珍しい石で大切にしよう。
(「筵内神社会」の掲示板による。)
④ 貴布祢神社は現在熊野神社の境内社として祀られている。

3. 庚申塔 【 J 】

- ① 庚申尊天：「宝暦3年癸酉」の紀年名がある。

4. 医王寺(一字一石経・六地藏・秋葉神社) 【 K 】 (別紙)

- ① 宗派・本尊：宗派)曹洞宗、本尊)薬師如来
② 縁起：曹洞宗医王寺は養老2年(718)行基による創建といわれる。古い歴史をもち新宮町の梅岳寺はじめ20か寺以上の末寺をもっていた。戦国時代の戸次道雪から雲版を寄進され、菩提寺でもある。
③ その他：境内には閻魔像等を祀った観音堂があり、一字一石経塔もある。

5. 切腹の間 【 L 】

- ① 旧黒田藩御典医の屋敷。現在は石川貫山氏宅。外観に手を加えているが、屋内は昔のままで、切腹の間(畳4枚を4列に並べた部屋)とその隣りに介添えの間(畳2枚を同様に敷いた部屋)がある(現在はフローリングに改修)。
- ② 典医がかかわった藩主が亡くなった時、典医が切腹することになるが、その為の部屋をあらかじめ準備していた、という。ただし、こは一度も使われなかった。

6. 立花家家臣の墓 【 M 】

- ① 『天正十九年北崎智英居士十二月二十日、裏面に軍兵衛尉直勝』
- ② 筑前国続風土記拾遺：北崎雄山智英の墓、瓜木屋人家の側にあり。天正19年2月20日と有り。立花家の士なるべし。(資料)

7. 山の神 【 N 】

- ① 旦の原入口の唐津街道沿いにある。安政6年(1859)の銘があり、庄屋山のロの名もある。街道の安全を祈ることや山仕事、農耕の守護神として村人の信仰をあつめた。前の未舗装の道は江戸時代の唐津街道がそのまま残っている。
- ② 男女のシンボルを祀ってある。祠の裏面には『安政六年未正月(1859)庄屋安武吉十郎代、山ノロ北崎和吉代』とある。

8. 旦ノ原の井戸 【 O 】

- ① 唐津街道の峠道にある旦ノ原は水がないため往来する人馬が困っていた。それを見かねて当地に住んでいた伊東忠平が大庄屋の許可をもらい自分の屋敷に文久2年(1862)の秋、井戸を掘り始め翌3年の秋に完成した。
- ② 「二郡四村井戸一つ」と呼ばれていた。昭和61年県道拡張のため現在地に移された。二郡四村とは糟屋・宗像の二郡、と筵内・薦野・内殿・上西郷の4か村である。

9. 清滝の仕掛水 【 P 】

- ① 清滝から発した仕掛水がここから福間に注ぎ込んでいる。
⇒ 清滝仕掛水：清滝水路とも呼ばれ、明和9年(1772)に清滝から上西郷までの5kmに亘る水路を作った。当時の覚え書きの約束は現在も守られ毎年1月

初旬から3月末まで福間町に送水されている。今も溝床米として福間から水利費50万円が支払われている。覚え書きは薦野地区の担当者の金庫に保管されている。(薦野地区参照)